資料 ２－６

「在宅医療懇話会検討結果整理シート」アンケートによる泉州圏域の在宅医療に係る現状と課題、提案・要望のまとめ

６

○医療廃棄物の取り扱いの自治体間の差

その他

○訪問看護ステーション間の連携体制

○在宅療養支援診療所以外の医師との連携（研修会・交流会の開催）

○住民、関係機関への周知

訪問看護の現状と課題

○医師会の協力のもとに医療介護連携カンファレンスの体制づくり

○地域包括支援センターの参画、ＳＷ、ＰＳＷを活用しての家族支援

○特色を持った事業所の周知（市民、関係機関向け）

○関係市町間の連携（圏域間）、支援体制の構築（ＩＣＴの活用等）

○医療・介護の市民窓口としての在宅医療コーディネーターの設置

○泉州圏域市町担当者会議の定期的な開催

○医療連携についての議論

医介連携事業の現状と課題

○在宅訪問の、件数が少ない、マンパワー不足

○薬剤管理指導の支援窓口が必要

○施設入所後に指導管理できなくなる

○24時間対応のため診療所、病院との連携体制の構築

○住民、関係機関への周知

○研修会の開催による体制整備

在宅薬事の現状と課題

○施設入所後に治療・指導管理が継続できない（介護施

設が別の歯科医療機関と連携している）

○介護認定審査書類で歯科、口腔の項目が明らかでない

○口腔ケアの重要性についての住民理解が必要

○夜間の在宅歯科診療は難しい

○口腔ケア・嚥下訓練を行う機関の一覧化

在宅歯科の現状と課題

○緊急時、夜間の受け入れが困難な場合がある（救急告示病院以外、疾患により困難）救急対

応し、診断、初期対応後に転院させるなどの対応が必要）

○疾患の重症度による受け入れ体制の構築（2階建て）

○患者・家族は自宅から遠方の病院搬送は敬遠される

○レスパイト入院、介護困難ケース、がん末期ケースの受け入れ体制の構築

○在宅医、訪問看護、在宅医療支援病院、在宅療養支援診療所との連携体制の構築

○圏域内の在宅療養支援診療所の地域による偏り（医師会非加入機関を含む）

○在宅療養支援診療所以外による往診・訪問診療の拡大

○専門的な医療処置、管理が難しい、アドバイスを受ける機会がない、衛生材料の調達が困難（診療所の持ち出しが多い）

○泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻科、精神科などの在宅診療の情報・連携不足

○訪問診療医の負担が大きい（休日代診の仕組みがない、心身の負担が大きい、外来診療後の訪問診療の負担、外来診療中は緊急連絡が取りにくい）

○高齢者の検死が増加、がんターミナル等への資源不足

○在宅患者の登録による情報の透明化

在宅医療の現状と課題

**訪問診療**

**訪問診療**

在宅療養

支援診療所

薬局

訪問看護

ステーション

歯科診療所

保健所

ケアマネジャー

在宅医療

コーディネーター

在宅歯科ケアステーション

地区医師会

在宅療養支援病院

地域包括支援センター

市町村

３

○目標値の設定（自宅・居宅系施設での看取りなど））

○不足資源の検討（在宅医を確保できなかったケース数、理由）

○歯科治療、指導管理が継続されるシステムづくりと情報共有

○口腔ケアステーションの周知

○薬局の機能についてのマップ化・夜間緊急時対応薬局の輪番・薬局から医療機関、

関係機関への情報のフィードバック（継続指導、管理が必要な方についた）

○医療器材、機器についての医療スタッフの研修

○機関連携のための研修会、担当者会議の開催による情報交換

○市民啓発（在宅医療、歯科、薬局、介護）

**比較的短期で実現可能な提案・要望**

○高度急性期・急性期・亜急性期病院間での治療管理の均てん化

○一般診療所での往診、訪問診療の継続・拡大

○開業医の各診療科の専門性を考慮しネットワーク作り

○入退院、紹介、逆紹介に関してのルールづくり

○ＩＣＴ活用　　ホームページの作成　　在宅報酬の相談窓口の設置

○緊急時対応についての主治医・患者家族とのアドバンスケアプランニングの成熟

（在宅患者の登録による情報の透明化）

○在宅医を支える仕組みづくり（主治医・副主治医制のチーム、バックアップの医師との連携）、

○在宅医療推進事業の継続、市町からの委託によるコーディネーター事業の実施

○救急以外でも受け入れ病院を探すシステムの構築（二次医療圏の当番病院の設定、空床の情報開示）

**課題解決に向けての提案・要望**

**中・長期的な取組みが必要な提案・要望**

１

７

○基金事業の存続

国等への要望

５

４

２